

プログラム

9:25 ~ 9:30	開会の挨拶 井上善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門)
9:30 ~ 10:50 一般演題<1>	<p>座長：山内健 (佐賀県医療センター好生館 小児外科) 飯塚堯 (国立病院機構 高崎総合医療センター 総合診療科)</p> <p>①重症化したPPN施行末梢静脈カテーテル血流感染症の2例 大川建志 (大阪府済生会茨木病院 外科)</p> <p>②末梢静脈輸液の血管外漏出による皮膚傷害に対する当院の取り組み 島田三千代 (福井県立病院)</p> <p>③当企業団3病院におけるアミノ酸加糖電解質輸液処方時のアラートシステムの検討 奥野聡之 (南和広域医療企業団奈良総合医療センター 薬剤部・NST)</p> <p>④末梢静脈内投与用アミノ酸・糖・電解質・脂肪・水溶性ビタミン液 (エネフリード®) の当院における使用状況について 長沼篤 (国立病院機構 高崎総合医療センター 消化器内科・NST)</p> <p>⑤鳥取赤十字病院における脂肪乳剤の使用状況 山代豊 (鳥取赤十字病院 外科・救急部)</p> <p>⑥脂肪乳剤の適正使用量は？ 目黒英二 (函館厚生院 ななえ新病院 内科)</p>
(10分休憩)	
11:00 ~ 12:15 一般演題<2>	<p>座長：木許健生 (大阪府済生会茨木病院 外科) 北出浩章 (関西医科大学総合医療センター 肝胆膵外科)</p> <p>⑦小腸全摘後の短腸症候群に対する在宅静脈栄養導入に難渋した動脈解離小腸壊死の1例 山本裕之 (行徳総合病院 消化器外科)</p> <p>⑧乳幼児・小児に対するダクロンカフ付き中心静脈カテーテルの穿刺挿入におけるStep-up dilation法 山内勝治 (奈良県総合医療センター 小児外科)</p> <p>⑨当科でカテーテル留置を行っている小児HPN患者におけるカテーテル合併症と管理法の工夫について 山内健 (佐賀県医療センター好生館 小児外科)</p> <p>⑩在宅医療と薬剤師の役割 - 輸液・栄養教育と課題 - 杉田尚寛 (株式会社スパーテル医薬品情報室)</p> <p>⑪A病棟における小児血液内科患者の栄養充足率の実態調査 徳野実和 (地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター 看護師)</p>
(5分休憩)	
12:20 ~ 13:20	<p>ランチョンセミナー「この歳になっても、まだ、カテーテル管理の研究中」 共催：ニプロ株式会社 講師：井上善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門)</p>
(10分休憩)	
13:30 ~ 13:35	事務連絡 井上善文
13:35 ~ 14:10	企業PR (株式会社大塚製薬工場、ニプロ株式会社) 座長：井上善文 ⇒ 企業展示
14:10 ~ 15:50	<p>激論企画「静脈栄養、カテーテル管理：こんな問題で悩んでいる」</p> <p>座長：栗山とよ子 (福井県立病院 内科・NST) 野呂浩史 (市立芦屋病院 外科)</p> <p>ディスカッサント：徳野実和 (大阪市立総合医療センター 看護部) 山本祐二 (つくばセントラル病院 救急診療科) 目黒英二 (函館厚生院 ななえ新病院 内科) 木暮道彦 (公立藤田総合病院 外科)</p> <p>⑫中心静脈カテーテルドレッシング剤管理に関する看護上の問題提起 森みさ子 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)</p> <p>⑬点滴のみによる栄養管理の継続に難渋した長期療養高齢患者の一例 井上江里子 (堺平成病院 看護部)</p>
16:00 ~ 17:45 一般演題<3>	<p>座長：庄司浩気 (社会医療法人中央会 尼崎中央病院 総合診療科) 吉川正人 (東宝塚さとう病院 外科)</p> <p>⑭私の栄養管理歴：胸部レントゲン写真を利用したPICC挿入長予測式の妥当性の検討 木許健生 (大阪府済生会茨木病院 外科)</p> <p>⑮末梢挿入式中心静脈カテーテル (PICC) の抜去困難症例から得られた病理学的考察とPICCに期待すること 庄司浩気 (社会医療法人中央会 尼崎中央病院 総合診療科)</p> <p>⑯末梢挿入式中心静脈カテーテルの先端が右前頸静脈に迷入した1例 林泰生 (市立敦賀病院 外科)</p> <p>⑰腹腔・静脈シャント (デンバーシャント) 留置時に胸腔内出血を来した症例 北出浩章 (関西医科大学総合医療センター 肝胆膵外科)</p> <p>⑱当科におけるCVポートの合併症の検討 木暮道彦 (公立藤田総合病院 外科)</p> <p>⑲当院における中心静脈ポート (CVポート) の留置後経過・管理と留置適応の指標に関する検討 野呂浩史 (市立芦屋病院 外科)</p>
17:45 ~ 17:50	閉会挨拶 井上善文 (大阪大学 国際医工情報センター 栄養デバイス未来医工学共同研究部門)